

日本おける直接的、間接的な水使用。

Abstract

日本人は水を無駄遣いしすぎだ。今、世界は水危機に陥っている。よく耳にするような言葉だが、当の日本人達はそれ程気にかけていない。実際に日本には水がありふれているからだ。気にするとしたら世界にある使用し得る残り少ない水の事ではなく、水道料金の方であろう。使いすぎたら水道料金が嵩むから節水しよう、程度にしか考えてない人がほとんどだろう。しかし、事態はそんなに軽いものではない。より実感を持ってもらうために、世界の人々と日本人の水の使用状況などを分かりやすく数値化した資料がいくつかあったので、それについて考察していきたいと思う。そして、水使用といっても実際に水を使っている意識はなくても、間接的に使っているという現実がある。それが「仮想水」である。

資料1 読売新聞朝刊。「水危機①」2008年1月21日。

読売新聞と東京大学が共同で実施した家庭の水使用調査で、日本に住む3人暮らしの名元一家は1日あたり容量10リットルのバケツ28杯分もの水を使用していた。この数値は日本においては平均的なものである。アメリカの平均的な家庭では23杯、中国では5杯、ケニアでは2杯という結果だった。そして、今日、世界の人口の6分の1にあたる11億人の人が飲み水に貧窮している。毎年200万~400万人が、下痢やコレラなど水に由来する病気で死んでいる。

資料2 「水の利用状況」国土交通省土地・水資源局水資源部。2007年8月21日。日本の生活用水、工場用水、農業用水の利用状況が記載されている。庭用水の使い方は、トイレ（約28%）、風呂（約24%）、炊事（約23%）、洗濯（約17%）といった洗浄を目的とするものが大部分を占めている。

http://www.mlit.go.jp/tochimizushigen/mizsei/c_actual/actual103.html

資料3 読売新聞朝刊。「水危機②」2008年1月22日。

これは主に仮想水について言及している記事で、牛丼1杯作るのには180リットル入る風呂10.5杯もの水が必要だという。その他にも様々な食事メニューとそれに必要な仮想水の量が示されている。仮想水料理の原材料を作るのに必要な水量と、食べる重量から計算する。仮想水というやや難しい概念を牛丼や風呂といった馴染み深いものとリンクさせている。

資料4 野田岳仁 「日本人は、一人一日に1,460リットルの水を輸入していることを知っていますか？ヴァーチャルウォーター（仮想水）といえ方」2006年3月31日。

http://www.inax.co.jp/company/news/2006/060_eco_0331_48.html

このサイトも、仮想水のことについて言及している。資料3より細かい情報が載っている。分かり易いグラフが多くある。日本は主要先進国の中で水使用量が第4位だということも述べている。

資料5 Olivier Ozoux. 「Virtual Water」2007年10月26日。

<http://www.ozoux.com/eclectic/archive/2007/10/26/virtual-water>

このサイトは英語のサイトだが、ほとんどが絵なので、とても分かり易い。

* 対応策と私たちに出来ること

まず、仮想水という間接的な水使用の問題について。今回調べてみて分、やはり日本がこれを使いすぎている一番の原因は多くの食物を海外から輸入している事に起因すると思った。解決するには現在の40パーセントという、途轍もなく少ない食料自給率を上げること、つまり国内で消費する食料は国内で生産するという、国産国消という発想が必要である。そして、直接的な水使用の問題。これを解決しようと国連ミレニアム開発目標が掲げられ、国連機関や各国政府によって様々な施策が取り組まれている。世界的な水政策のシンクタンクとして World Water Council（世界水会議）が1996年に設立され、3年に1度「世界水フォーラム」を開催しているし、2003年には、京都・滋賀・大阪にて開催された「第3回世界水フォーラム」があった。それを機に国連・各国政府・NGOなどの境界のない取り組みが始まっている。NPO法人 Waterscape は、世界の若者たちと連携し、

オランダ皇太子など世界のリーダーや 50 カ国を越える若者が参加する「ユース世界水フォーラム」を開催した。こういった、水問題に対する各国の意識が重要である。

しかし、最も重要なのは我々個人の意識と知識だと思う。水は有限資源であるという事を一人一人が自覚し、常に節水を心がけることが大切である。歯を磨く時、水道を止める。洗濯には風呂の残り湯を使う。シャワーはなるべく短く。トイレの小を大で流さない。水にまつわる日常の全ての事に目を向け、節約できる部分があれば節約しようと努めることが、我々がまず始めにしなければならない事である。水に関しての知識を深めることも同様に大事だと思う。テレビ、新聞、雑誌、マンガなどあらゆるメディアでこの問題をもっと多く取り扱うべきだ。学校でもこの問題を取り扱う授業を増やすべきだ。知識が無いが故、水をタダ同然のものとみなし無駄遣いしている人も、少なくないだろう。実際に私もこの授業を通じて更に節水を心がけるようになったし、誰かが水を無駄遣いしているのを注意するまでになった。水がたくさんある日本だからこそ、水のありがたさを一人一人が理解すべきだと、私は思う。